

●ゼミナールハウス

<p>前回検証結果</p>	<p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会環境の変化や施設の機能を踏まえ、設置目的を再検証し、施設のあり方について検討を行うこと。 ・施設の内容に合致した営業の戦略（マーケティング戦略）による利用率の改善を図ること。 																				
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等における宿泊を伴わない研修の増加等社会環境の変化に応じて、施設の豊かな自然環境を活かし、ニーズが高まっているアクティビティやアウトドアなどのイベントと連携し、施設利用につながる取組を実施。また、研修室等の採光や開放感を高め、快適な研修環境を整えるとともに、多彩な文化講座等様々な年齢層が利用できる取組を展開。 ・観光庁事業（R3、R4）を活用し、新たな地域資源と事業展開の可能性を検討中（地域の事業者や森の京都DMO等と連携による京北地域を自転車で巡るモニターツアー、アウトドアサウナ作りワークショップ、遊具DIYワークショップ、トークイベント等の実施。コロナ後の施設の利用拡大と地域活性化につなげるためのアウトドア利用客等に向けた商品開発等）。 ・京都商工会議所への加入と会員へのPR、コンサル等への定期的な経営相談を実施。令和3年度に、若者や企業等の利用拡大を目指し、HPを京北の魅力と施設紹介動画を含む内容に全面刷新するとともに、府観光連盟や森の京都DMOと連携した旅行会社や教育機関等へのPRを実施。令和4年度においては、学生や企業、第2のふるさとを求める層などターゲットを絞った内容に取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染症による休業からの利用再開に向け、顧客リストを活用したPRを実施。 																				
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響等により、利用者数、利用率及び利用料金収入は減少</p> <table border="1" data-bbox="499 1491 1399 1688"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数（人）</td> <td>38,281</td> <td>37,269</td> <td>6,374</td> <td>7,950</td> </tr> <tr> <td>利用率（%）</td> <td>27.5</td> <td>30.6</td> <td>8.3</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>利用料金収入（千円）</td> <td>28,153</td> <td>26,088</td> <td>4,372</td> <td>6,379</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇観光庁事業を活用した財源確保（新たな事業展開の検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫活用額 R3：900万円、R4：1,900万円 		H30	R元	R2	R3	利用者数（人）	38,281	37,269	6,374	7,950	利用率（%）	27.5	30.6	8.3	10.8	利用料金収入（千円）	28,153	26,088	4,372	6,379
	H30	R元	R2	R3																	
利用者数（人）	38,281	37,269	6,374	7,950																	
利用率（%）	27.5	30.6	8.3	10.8																	
利用料金収入（千円）	28,153	26,088	4,372	6,379																	
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者数、利用率及び利用料金収入は低調。 ◆施設・設備の老朽化が進行。 																				

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□研修室は、大学生等にとって貴重な学習体験の場となる可能性を有しており、その積極的な活用に引き続き取り組み、設置目的も踏まえた上で幅広い利用者の拡大を企図されたい。諸外国の大学生を誘客し、彼らによる本施設の新たな価値創造を一緒に行っていることは高く評価できる。</p> <p>□自然豊かな環境に立地していることをベースとした既保有資源である森林やアウトドア活動に適している状況等の強みを伸ばさせる取組や民間事業者との連携等の取組を実施してきたことは高く評価できる。</p> <p>□近場で自然と触れ合える京北の地域資源と連携した新たな楽しみ方や、長期滞在しても費用負担が小さいワーケーションの拠点等として積極的に周知されたい。</p> <p>□今後、一気に利用者数が増加することは考えられず、新型コロナウイルスの影響を乗り切るための新たな戦略の立案が求められる。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p><改善方策></p> <p>◎客層ごとのニーズを捉えた広報や運営の工夫により、効果的な利活用を更に図ること。</p> <p>◎宿泊と滞在の各機能や自然豊かな施設の強みを活かし、継続的な視点を持って、戦略的に運営を行うこと。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○従来からの大学や企業等の宿泊研修施設としての利用強化と、新たな視点による施設の魅力を活かした、利用者確保のための広報を行い、幅広く効果的な利活用を図る。</p> <p>○自然豊かな環境を活かし、地域とも連携しながらグリーンツーリズムに取り組むなど、多角的なニーズに応えられる運営を行う。</p>